

5

自ら計画を立てて、自ら学ぶ熊本の子供たちに！

～家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進～

本章の概略

- これまでの全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果から、本県の課題として、「家で自分で計画を立てて勉強すること」^(注1)があげられます。この課題を解決することは、熊本の学びの理念である「能動的に学び続ける力」の育成に不可欠なものです。そのためには、まず、家庭と連携して、学習習慣形成の素地となる環境を整えていくことが大切です。
- また、中学校の学校質問紙調査結果（平成30年4月実施）では、「保護者に対して生徒の家庭学習をうながすような働きかけを行いましたか」^(注2)という質問に対して、本県は全国平均を大きく下回るとい調査結果が得られました。各学校で保護者に対して、家庭学習への働きかけをこれまで以上に行っていく必要があります。
- さらに、熊本県子どもの生活に関する実態調査（平成30年3月実施）の結果^(注3)では、小学校5年生の保護者で約3人に1人、中学校2年生の保護者で約4人に3人が「家庭での学習への働きかけがない」という、家庭の関心の低さが課題として浮き彫りになりました。
- そこで、本章では、子供たちの家庭学習習慣の確立に向け、次の二つを重点として、取組の方向性を示します。

重点1 学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

◆ 15年間を見通した五者の連携の在り方について

- ・学習習慣形成の素地となる環境づくり
- ・それぞれの役割の明確化
- ・五者で連携し、育てていく力のイメージ図

重点2 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

◆ 自ら計画を立てて学習できる子供の育成について

- ・家庭学習における本県の現状
- ・家庭学習のポイント（子供編／学校編／家庭編）
- ・家庭学習の学校実践例

(注1) 令和元年度調査では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が、小学校68.3%に対し中学校は45.1%と低く、全国と比較しても、小学校で3.2ポイント、中学校では5.3ポイント低い。

(注2) 「当てはまる」と回答した割合が、全国よりも15%以上下回る。

(注3) 「ほとんどない」と回答した割合は、小5で33.2%、中2で74.8%である。

重点1 学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

1 5年間を見通した五者連携の在り方について

(1) 学習習慣形成の素地となる環境づくり

- 生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するためには、幼児期からの様々な経験やたくさんの人との関わりを通して、「認められる」「ほめられる」などの経験を積み重ね、自己肯定感を高めていくことが大切です。そのためには、五者が連携し15年間を見通して、それぞれの段階で役割に応じた関わりを行っていく必要があります。
- 学びに向かう力を高めるには、幼児期には遊びの中で、学齢期には生活・文化体験、自然体験及び社会体験等の様々な体験活動を通して学んでいくことが大切です。いつまでに、どのような力を身に付けさせるのかを五者で共有しましょう。

幼児期までを共有しましょう

これらの幼児期の力が家庭学習習慣の土台になります。

3歳までには	6歳までには
基本的な生活習慣を身に付けた子供	
大人の呼びかけで、健康で安全な生活をつくりだしていただけるようになる。	自ら健康で安全な生活をつくりだしていただけるようになる。
約束やルールを守る子供	
してよいことと悪いことがあることに気づき、決まりを守るようになる。	決まりの大切さが分かり、進んで守るようになる。
人・もの・自然とふれあい、命を大切にする子供	
自分から周りの人に親しみを持ち、関わるようになる。	自分から周りの人に親しみを持ち、関わりを大切にするようになる。
相手の話をよく聞き、自分の考えや気持ちを話せる子供	
自分の気持ちを言葉などで伝えるようになる。	自分の考えを言葉で伝えたり、工夫して表現したりするようになる。
自分で考え、最後まで取り組む子供	
自分の興味・関心をもったことに取り組むようになる。	自分の興味・関心をもったことに進んで取り組むようになる。

【「新 肥後っ子がやきプラン」より】

- 学齢期には、視野を広げるために、様々な体験活動に積極的に取り組むことが重要です。そのためには、学校だけではなく、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を実施し、豊かな体験の充実を図ることが大切になります。現在、熊本県で推進しているコミュニティ・スクールや地域学校協働本部と連携・協働した地域学校協働活動の取組の更なる充実を目指しましょう。

学齢期までを共有しましょう (例①：阿蘇市)

阿蘇市のエンジョイ子育て 阿蘇っ子の育ち

家庭教育はすべての教育の出発点です。子どもが「生きる力」を身につけていく基礎をつくるために重要です。子どもをどう育てていくのか、迷いは誰にでもあります。そこで、参考になればと、発達段階に応じた子どもの育ちの目安を作成しました。

心豊かで郷土を愛する たくましい阿蘇っ子

家庭での 働きかけ・心がけ

中学校

自主性を認め、見守ろう

<自我の確立> みんなは自分のことをどう思っているだろうか？と他人からの評価が気になります。自分は親の所有物じゃないなど親や大人への反抗期です。

- 社会や学校の決まりを守らせましょう。
- 学校や家庭での自分の役割を果たさせましょう。
- 学習に取り組みやすい環境を整えましょう。
- 進路について一緒に考え、支援したり励ましたりしましょう。
- 主体性を持って「メディア」を選択し判断し発信する力を子どもともども身につけましょう。

「メディア」に費やす「総時間」をコントロールしよう！

小学校4年～6年

認めて、ほめて、受けとめよう

<活動性> 夢や希望を持ち、知的好奇心がわいてきます。友だちとのかかわりの重要性が大きくなっていく頃であり、子ども同士の思いや人間関係が難しくなる頃です。

- しっかり対話して信頼できる親子関係を作りましょう。
- 子どもを認め、ほめ、自信を持たせましょう。
- 社会のルールを守らせましょう。
- 積極的に地域の行事や体験活動に参加させましょう。
- 子どもとともに「メディア」の利便性、危険性を学び上手に活用するルールをつくりましょう。

乳幼児に悪影響の「メディア」漬けはやめましょう！

小学校1年～3年

目を見て話して、話を聞こう

<社会性> ギャングエイジとも言われるわんぱくな時期です。社会性が育ち外遊びが大好きで、外部との交流が多くなります。

- 家族の一員として家事の手伝いなど、責任を持ってさせましょう。
- 学校でのできごとなどいっぱい聞いてあげましょう。
- 集中して取り組む経験をさせ、なしとげたときは、ほめましょう。
- 自然体験や社会体験の機会を増やしましょう。
- 「メディア」を使用するルールをいっしょに作りましょう。(1日の使用時間、使用場所など)

乳幼児に悪影響の「メディア」漬けはやめましょう！

4～5歳児

あなたは「大切な子なの」と伝えよう

<積極性> 「なんで？どうして？」と質問が増え、様々な事に積極的にかかわろうとする姿がみえてきます。

- 「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」などの習慣をつけましょう。
- 自然遊びやごっこ遊びなどを通して豊かな感性や好奇心を育みましょう。
- 子どもにできることを見つけ、持続させてさせてみましょう。
- テレビやビデオなどは保護者が選択して時間を決めて見せましょう。

乳幼児に悪影響の「メディア」漬けはやめましょう！

2～3歳児

「あなたのこと大好きよ」言葉と態度で示そう

<自己主張> 自己主張が始まります。何でも自分でやりたがり、失敗することも多いですが、自分でしようとする気持ちが大切です。

- 1日3食バランスの良い食事、早寝早起きなどの生活習慣がつくように親がモデルになりましょう。
- できた時や良いことをした時は、見逃さずにほめましょう。
- 悪いこと、危ないことをした時は言葉でしっかり伝えましょう。
- がまんすることも少しずつ教えていきましょう。
- 3歳までは「メディア」の視聴は控え、いっしょに絵本を読んだり戸外で遊んだりしましょう。

乳幼児に悪影響の「メディア」漬けはやめましょう！

0～1歳児

スキンシップで愛情示そう

<情緒の安定> 五感をつかさどる神経回路の主なものが完成します。情緒の安定をはかる時期です。子どもたちも「そばにいてね！」と思っています。

- 豊かな表情で語りかけ、だっこや声かけを十分にしましょう。
- 自分でしようとする気持ちを大切にしましょう。
- 食事、睡眠、排泄など生活リズムを作りましょう。
- 授乳中・食事中の「メディア」の使用はやめましょう。

ここでは、「メディア」とは、テレビ、ビデオ、パソコン、携帯電話、スマホ、テレビゲーム、インターネットなどを言います。

乳幼児に悪影響の「メディア」漬けはやめましょう！

- 一人ひとりの育ちの速さは違うもの、あせらずゆったりとした気持ちで、子育てしましょう!!
- 親子の時間を大切に、家族で子どもの成長をともに喜び合ひましょう!!
- 子どもの心を育てるためには、「本当に愛されていること」を年齢に関係なく、言葉や態度で伝え続けて、実感させましょう!!
- 普段の子どもの様子をしっかりと把握しておく、目の輝きやちょっとしたしぐさなどで、悩みなどにも早めに気づけます。言葉にできない思いに気づいてあげましょう!!
- ネット社会の事件に巻き込まれないために、情報社会のルールやマナーを教えましょう!!

※携帯電話やスマホなどのフィルタリング設定は保護者の義務です!!

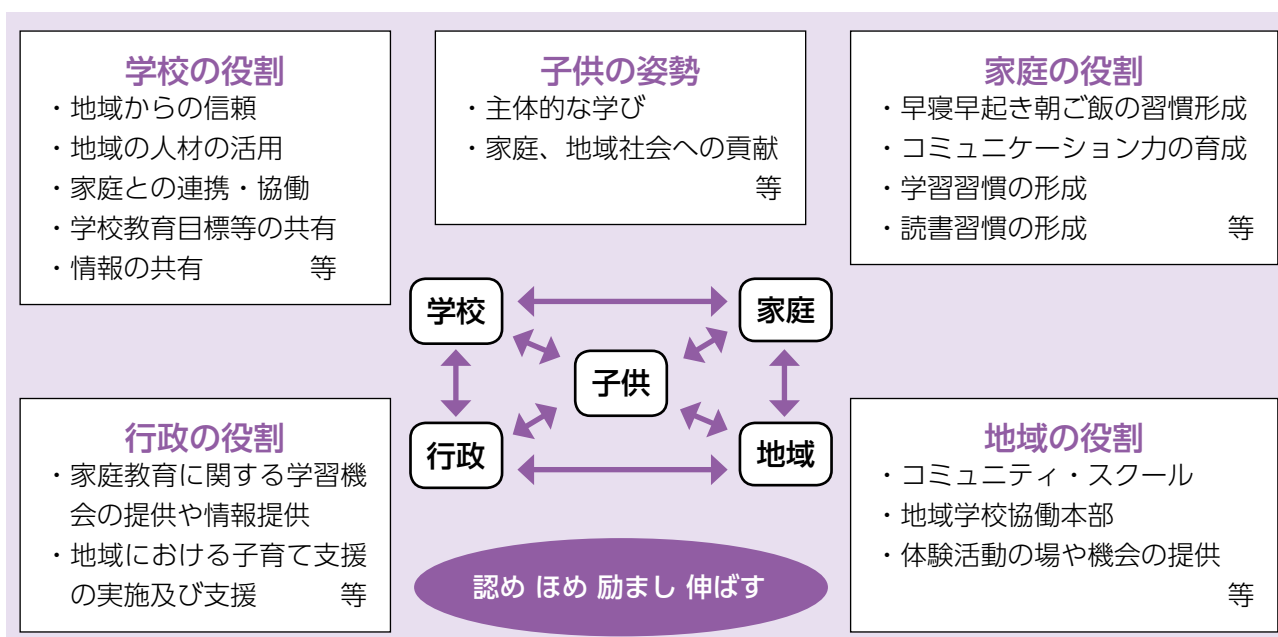
平成28年4月改訂 阿蘇市地域教育支援協議会 阿蘇市教育委員会 阿蘇市青少年健全育成市民会議 阿蘇市PTA連絡協議会

学齢期までを共有しましょう（例②：大津町）



(2) それぞれの役割の明確化

- 生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するためには、子供を中心に据え、五者が連携する必要があります。それぞれが、それぞれの立場で役割を果たし、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」環境づくりに努めましょう。



下の図の例のように、就学前から学齢期までの15年間を見通して、それぞれが役割を果たしながら、五者が連携し、一体となって環境づくりに努めましょう。

学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう！

☆ご自分の子供さんができているか□にチェックを入れてみましょう。

子供の取組を 認め ほめ 励まし 伸ばす

保護者

続けてがんばってるね！



学校

〇〇について、詳しく調べたね。わかりやすくまとめているね。



行政

この本おもしろかったなあ。紹介しよう。



読書（読み聞かせ）に親しむ

今日は何して遊ぼう？



外で楽しく遊ぶ

早く寝ると朝もすっきり目覚めるね！



早寝・早起き・朝ごはん

きれいになって気持ちがいいね！



地域を知る

大きくなってね！



動物・植物を育てる

遊びを通して学ぶ

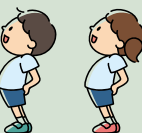
健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり



思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現



就学前【0歳～5歳】

小学校【6歳～12歳】

コミュニティ・スクール

夢・志・可能性に挑戦

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など

実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

自分の好きなこと、得意なことを伸ばす

自分の好きなこと、得意なことが分かる

なぜかな？
調べてみよう！



好きなことを調べる

調べてみたら新たな疑問がわいてきたぞ！



新たな課題を発見・探求する

昨日よりタイムを
縮めるぞ！



めあてをもって運動に挑戦する

時間を決めて楽しもう！



メディアをコントロールする

助かるわ。ありがとう！



家族の一員としてお手伝い

運動すると、
気持ちいいね！



自分の体力や健康に関心をもって運動に挑戦する

みんなの祭り
楽しい！



地域行事への参加する

人の役に立ってるって
うれしいね。



ボランティアで人に役立つ喜びを知る

わたしにできること！みんな
のためにがんばろう！



地域に貢献する

みんなでいろいろな体験
ができて楽しいな！



宿泊体験活動

みんなが笑顔って素敵
だね！



自他の命を大切にする

中学校【13歳～15歳】

【16歳～】

地域学校協働本部

重点2 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

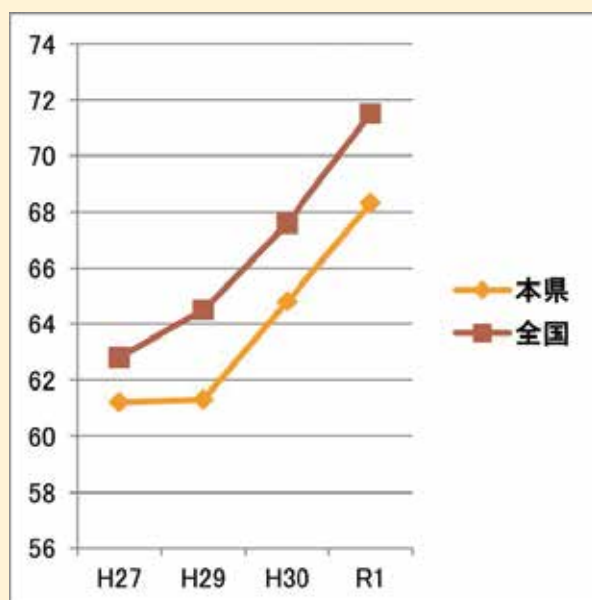
自ら計画を立てて学習できる子供の育成について

(1) 家庭学習における本県の現状

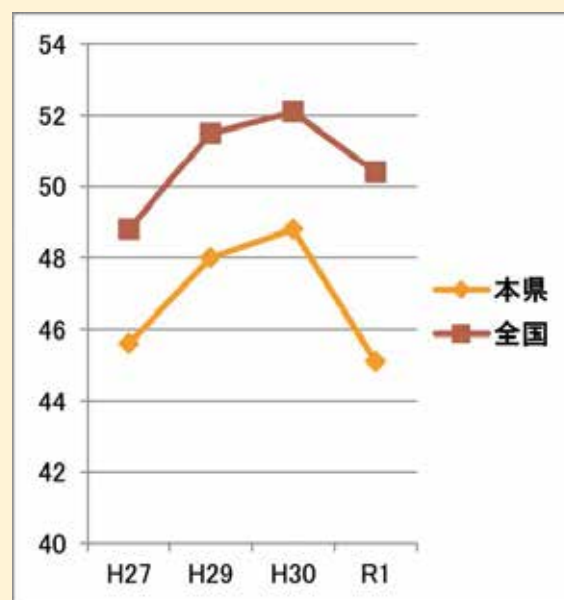
- 生涯学習を見据えて能動的に学び続ける学習者を育成するためには、小学校の早い段階で学習習慣を確立することが重要です。しかしながら、下のグラフのとおり、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における本県と全国との結果には差が見られ、学習習慣が確立できていないことが分かります。

家で自分で計画を立てて勉強していますか

「当てはまる」 + 「どちらかと言えば、当てはまる」



小学校



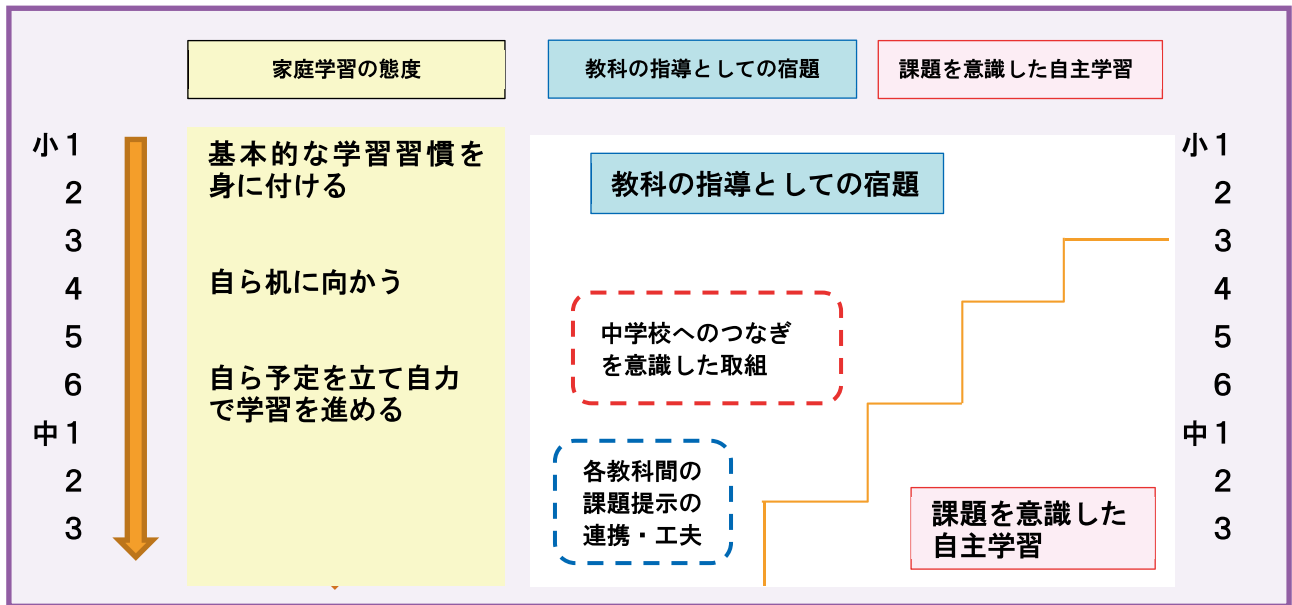
中学校

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より

- 全国学力・学習状況調査の結果等から家庭学習と学力には相関関係があるといわれています。学校での学びを家庭学習で確かなものにしたたり、家庭学習で疑問に思ったことを学校で学んだりする等、学校と家庭の学びをつなぐために家庭学習習慣を形成することが大切です
- 小学校から中学校への発達段階に応じた家庭学習の意義と系統を、学校と家庭が共有し連携・協働しながら子供たちに関わっていきましょう。

- 次の例は、家庭学習について、9年間の系統例です。


【家庭学習の9年間の系統例(イメージ図)】(宇城市学力向上プロジェクト)



- 「いつ、どの課題を、どれくらい取り組むか」について、児童生徒が自分で計画を立てて学習できるように「家庭学習の手引き」等で示すことも重要です。各学校でPTA総会、学級懇談会、家庭訪問等の機会を捉えて手引き等を活用し啓発していきましょう。

【手引きの例】(大津町立室小学校)

1ねんせい かていがくしゅうの すすめかた



めあて
じぶんから すすんで がくしゅうが できるように なりましょう！

《 やくそく 》
◎テレビをけす。
◎しゅくだいと おんどくは かならずする。

《 かんはること 》
○じぶんから すすんで 学しゅうしましょう。
○ていねいに かきましょう。

いつ がくしゅう するか { }


どこで がくしゅう するか { }

まいにち 20ぶんくらいは がくしゅうしましょう。

※かようびは てれびや げえむを やめて、ほんを よみましょう。
おうちの ひとと たくさん おはなし しましょう。

おうちの人へ
・テレビを消して きちんと 座らせて 取り組ませてください。
・時間、場所を 親子で 決めてください。
・子どもさんへの励ましの声かけをお願いします。

6年生の 家庭学習の進め方



めあて
高学年として、自分から課題を見つけて自主的に家庭学習に取り組む習慣を身につけましょう！(中学校での学習を意識して、自主学习に取り組もう。)

《 約束 》
◎テレビや音楽を消して、静かな所で、集中して学習しましょう。
◎学習する時間と場所を、決めておきましょう。
◎自分にとって必要な学習を考えて、目的を持って、学習に取り組みましょう。

《 努力すること 》
○宿題以外に、自主学习や読書にも取り組みましょう。書くだけではなく、内容のある学習になるようにがんばりましょう。
○かたよった学習にならないように、いろいろな内容に挑戦しましょう。
○弱点のこくふくなど、自分に合った(必要な)学習の仕方を身につけましょう。
○文字はていねいに書き、計算もていねいにしましょう。線はじょうぎで引きましよう。
○できるだけ、新聞にも目を通してみましよう。
○目標時間、毎日学習を続けましよう。

いつ学習するか { }

学習する場所 { }

学習目標時間は、宿題と自主学习を合わせて
5年生…60分以上
6年生…70分以上

計画を立ててがんばろう！

※火曜日は、ノーテレビ・ノーゲーム、ノースマホ、ノータブレットデーです。
読書をしたり、家の人と話したりしましょう。

(2) 家庭学習のポイント1 (子供編)

家庭学習のスケジュール作成

■ 繰り返し学習する内容を「月・週・日」を単位に計画を立てさせましょう。

日	月	火	水	木	金	土
	01	02	03	04	05	06
07	08	09	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20

- ① いつ、何を、どれくらい取り組むか、決めさせましょう。
- ② 毎日計画どおりできたかチェックさせましょう。
- ③ できることから取り組ませ、自信をもたせる計画を立てさせましょう。

- 子供自身に、自分で計画を立て、決まった時刻に、もしくは一定の時間、家庭学習に取り組ませることで、習慣化することができます。
- 復習（その日の学習を振り返る・補充する）、予習（これから学習する内容の準備をする）、自分が興味のあることや、「なぜ?」「どうして?」と疑問に思ったことに主体的に取り組ませることも大切です。発達段階に応じて、児童生徒が必要な学習内容を選択できるように、段階的・継続的に取り組ませましょう。

探究的な学びと自主学習の取組

1 もっと知りたいこと、伝えたいことなど、自主学習のテーマを設定できるようにしましょう。

・「なぜ?」「どうして?」と疑問に思ったこと。

【例】世界の国旗、地図記号調べ、季節の植物、地域の特産物、魚への付く漢字、テレビのニュースや新聞記事をまとめる、中学校では原子記号、化学式 等

2 情報を収集させましょう。

- ・ 図書館（図書室）にある本（図鑑）
- ・ 身近な自然体験、日常の生活体験
- ・ 新聞や雑誌、インターネット
- ・ インタビュー等

3 集めた情報を分類・整理させましょう。

4 伝えたいことや分かったことを絵、図、表等を使ってまとめさせましょう。

(3) 家庭学習のポイント2 (学校編)

- 家庭学習に取り組むたくても何をすればいいか分からなかったり、目的意識がなくやる気がわかなかつたりする児童生徒も少なくありません。子供たちに、「家庭学習ではどのようなことをすればいいか」を具体的に分かりやすく示すことが大切です。その際、家庭学習の取組について保護者と共通理解を図り、共通実践をしていきましょう。

【授業と家庭学習をつなげよう】

- 授業中に教師が、家庭学習につながる声かけをしたり、学習内容等を示したりすることも有効です。
- 子供が、更なる問いをみつけられるような声かけをしましょう。
- 学校で、その日の家庭学習の内容について計画を立てさせることも有効です。

今日は「木へん」の漢字を勉強したよ。他にはどんな漢字があるかな？調べてみよう。

【子供のやる気を引きだそう】

- 個に応じた家庭学習を出しましょう。(課題克服プリントの活用等)
- 子供たちが主体的に家庭学習に取り組むためには、「見届け」が必要です。がんばりを認めたり、次につながるアドバイスをしたりしましょう。



〇〇先生も見てください。うれしいな。

【家庭学習について職員間で共通理解を図ろう】

- 家庭学習の内容・量について共通理解を図りましょう。
- 家庭学習をチームで見守り、コメント等を書きましょう。
- 子供同士でお互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けましょう。

コメントがあると嬉しいな！また今日も頑張ろう！

【コメント例 (教師編)】

○教師は、取組内容について具体的なコメントを！

低学年 ・ていねいに、とめ、はね、はらいまで気をつけて書けたね。

中学年 ・べん強のしゅうかんがみについてきたね。いいぞ！つぎはれん習した漢字の意味を調べて、作文でつかってみよう。

高学年 ・量の単位のしくみは、もう一度、例題をやってみるといいですね。

★子供の取組を認め、ほめ、励まし、伸ばすコメントを書きましょう。



(4) 家庭学習のポイント3 (家庭編)

- 子供たちが自ら家庭学習に取り組むためには、家庭での保護者の関わりは欠かせません。子供たちが取り組んでいることを「認め ほめ 励まし 伸ばす」ことで、子供たちのやる気はアップします。しっかり見守っていきましょう。

【認め、ほめ、励まし、伸ばそう】

- 子供のノートを見て頑張ったことを認めましょう。
- よくなった点、工夫した点を具体的にほめましょう。
- 継続できていることを励ましましょう。

前より集中できるようになったね！



- また、家庭学習をする際の学習環境づくりも大切です。学習に集中する環境をつくり、継続して励ましていくことが必要です。家庭で話し合っ、ルールを決めて取り組ませましょう。

【つくろう！やる気にさせる学習環境】

- 机の上には学習用具だけ、これが集中するポイント。
- 正しい姿勢で学習する。
- 学習に必要なもの（辞書等）は、近くに置く。
- 決まった時間は、継続する。

学年×10分〈目安〉
勉強しよう。



【各家庭で話し合っルールを決めましょう】

- (例) ながら勉強はしない。
保護者が見守る部屋で勉強しよう。
読書を毎日10分間しよう。

- 家庭学習ノートに家庭の一言コメントがあると、子供たちのやる気が持続します。ノートを会話のきっかけにすると、よい関係にもつながります。家族のコミュニケーションツールとして活用しましょう。日々の積み重ねを通して、子供の成長を実感することもできます。

【コメント例 (家庭編)】

- 保護者は、取り組んでいること自体を認めましょう。

低学年 ・ノートいっぱいがんばりました。

中学年 ・たしかめをすることは、よいことだね！

高学年 ・自分の苦手なことに挑戦できたね！

私たちが応援しているよ。



チェックリスト（例）を活用して、家庭学習の取組を子供、学校、家庭で見直し継続・充実させましょう。

家庭学習 チェックリスト（例）子供編

- いつ、何を、どれくらい取り組むか、自分で計画を立てている。
- 自分で計画したことに取り組んでいる。
- 学習したことができるようになったかチェックできている。
- その日の学習の復習ができている。
- これから学習する内容の予習ができている。
- もっと知りたいことや興味のあること、疑問に思ったことをテーマにした自主学習に取り組んでいる。

家庭学習 チェックリスト（例）学校編

- 家庭学習の内容・量について、学校の中で共通理解を図っている。
- 帰りの会等を活用して、いつ、何を、どれくらい取り組むか、児童生徒が見通しをもてる計画を立てさせている。
- 授業中に家庭学習につながる声かけをしている。
- 家庭学習の取組内容に対する具体的な励ましコメントを入れている。
- 子供同士で、お互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けている。
- 家庭学習の取組について保護者に働きかけている。
- 自主学習を紹介している。

家庭学習 チェックリスト（例）家庭編

【子供と一緒にチェック】

- 家庭学習について、ルールを決めている。
- 机の上は、学習用具だけで集中できる状態になっている。
- 正しい姿勢で家庭学習に取り組んでいる。
- 家庭学習を、決まった時刻に始めている。
- 家庭学習ノートをもとに子供とのやり取りができている。

【保護者がチェック】

- 子供の家庭学習ノートを見ている。
- 子供の家庭学習ノートで、よくなった点、工夫した点をほめている。
- 子供が家庭学習を継続することを、認め、ほめ、励ましている。

〈自主学習の取り組み方の指導〉

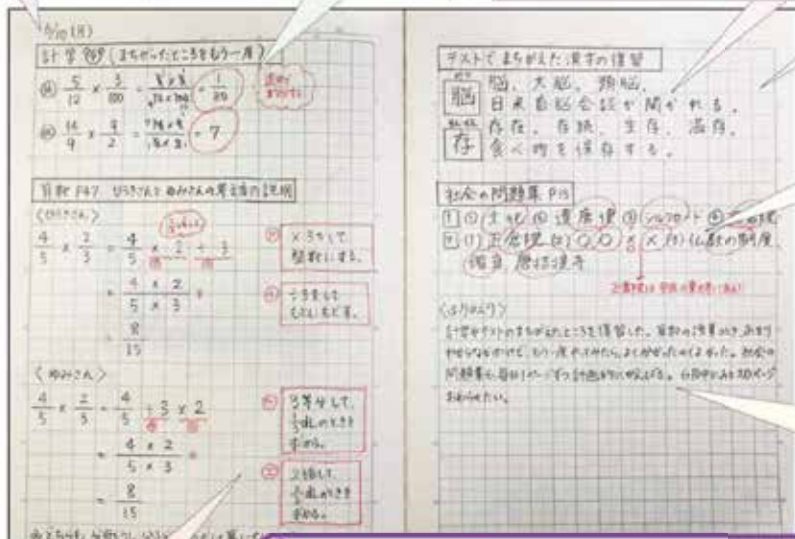
「自学」は、自分のために、自分に必要なことを学習するものである。先のことを見通して、どんな勉強が必要かを考え計画を立てて学習することが大切であること、そして、意図をもって取り組み、自分にとってどうだったかを振り返ることで学習内容の定着と自己理解を図るものであることを指導している。

日付を書きます。

まちがったところだけを、もう一度やって確かめましょう。

習った漢字を全部書くのではなく、とくに、苦手なところ**を練習しましょう。**

次の日の授業の予習をしてもいいですね。




自分が持っている問題集に取り組むのもいいですね。「毎日1ページずつする！」など、自分で計画をたてて進めてみましょう。

**最後にふりかえりをかきましょう。
目的&感想を2行ほど**
・何のために何をした
・やってみてどうだった

～自学ノート～

自分のための**学習**
自分で計画を立ててする**学習**

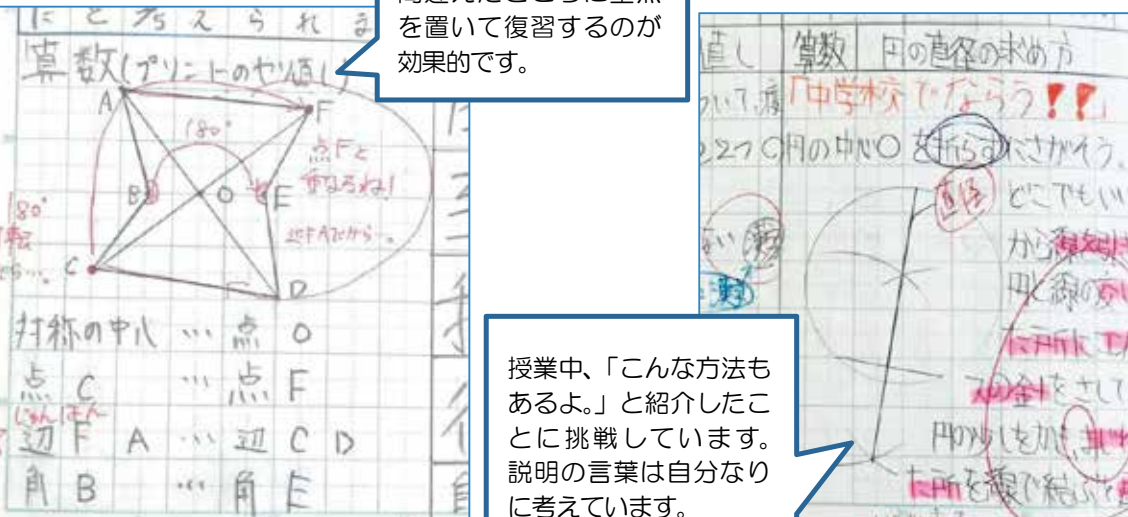


ぎゅうぎゅうづめ
なくてもいいよ

授業中に、あまり分からなかったところを、もう一度、自分の言葉で説明して、理解を深めよう。

間違えたところに重点を置いて復習するのが効果的です。

授業中、「こんな方法もあるよ。」と紹介したことに挑戦しています。説明の言葉は自分なりに考えています。



〈家庭と連携を図った家庭学習の取組〉

実施方法

- 1 毎月第3～4週目の月曜日から1週間を学習週間「いきいきたきおっこ大作戦（学習編）」とし、毎日家庭で記録をつける。
 - 2 保護者から「おうちの人のサイン」にサインをもらい、学校がある日は毎日提出する。
 - 3 担任が進捗状況を確認し、「先生のサイン」にサインをする。
 - 4 一週間の取組が終わったら、児童が目標に対する反省や感想などを記入し、保護者からコメントを書いてもらい、提出する。
 - 5 担任、校長が確認し、アドバイスや激励などを記入する。
- (10月からは、友だちからのメッセージからのメッセージも書いてもらっている。)

家庭学習・読書

ひょうじかん
10分 2年30分 3年40分

日	日にち	したこと				合計(分)	おうちの人のサイン					先生		
		しゅくだい	おんどく	どくしょ	そのほか		10	20	30	40	50			
	14日(月)	○	○	○	○	30								
	15日(火)	●	●	○	●	42								10/15
	16日(水)	●	●	○	○	30								10/16
	17日(木)	●	●	○	○	33								10/17
	18日(金)	●	●	●	●	35								10/18
	19日(土)	○	○	○	○	30								10/19
	20日(日)	○	○	○	○	40								10/20

がんばったこと・がんばろうとおもうこと
どくしょをもとがんばる。と書いています。

おうちのひとから
まいにち 30分 がんばりました。

先生から KAWACHI
よく学習のていどだね。文をノートにうつして書くといいよ。ことばを、自主べんははじめることだよ。

学校だよりでも、家庭学習の取組について掲載されています。

家庭学習の交流をしました

先週は、「いきいきたきおっこ大作戦(学習編)」でした。今回、子どもたちに、お互いのカードを見て、励まみやアドバイスのコメントを書いてもらいました。右の二つは、2年生が書いてくれたコメントです。読書や漢字の練習をしたらどうかと、ノートを使ったらいいよと、具体的に書いてあります。とても励みになると思います。今後もみんなで家庭学習を頑張っていきます。

しゅくだいがないと
きは家にある本とか
かん字のれんしゅうを
するといよ

そのほかができていないから
かん字はかせをやるといよ
あと、ノートを持っていてその
ノートにかん字のれんしゅうをしたら
かん字のテスト100点になつたよ
いっしょにがんばろう。

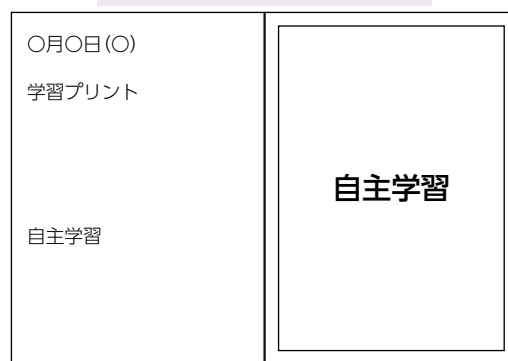
〈自分で計画を立てて取り組む家庭学習につなげる帰りの会〉

1 帰りの会終了後の10分間を使って自主学習に取り組ませ、生徒にその日の家庭での自主学習の計画を立てさせ、見通しをもたせる。

2 10分間の自主学習の前半は学校で用意したプリントで学習をする。

- 各教科担当（5教科）でノートのおよそ $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{2}$ くらいの大きさのプリントを準備する。
- プrintの内容は前の週に授業で学習した内容で、基礎基本の徹底を中心に作成する。
- Printは自主学習ノートの上半分に貼るようにする。

(例) 自主学習ノート



(帰りの会の進め方)

- ① 机の上には生活ノートを開いて、筆記用具だけを置く。(それ以外は置かない。)
- ② 帰りの会での連絡を生活ノートに記入する。
- ③ 生活ノートを片付け自主学習ノートを開く。
- ④ 班で自主学習ノートを見せ合い、一人から自主学習のコメントをもらう。



- ⑤ 本で行う自主学習を10分間行う。
- ⑥ 下校

(自主学習の内容)

月	火	水	木	金	土	日
国語	社会	数学	理科	英語	力をつけたい教科	

(タイムスケジュール)

基本日課	
帰りの会	15:45～15:55
自主学習	15:55～16:05
部活動	16:15～

〈委員会活動による「自学コンクール」〉

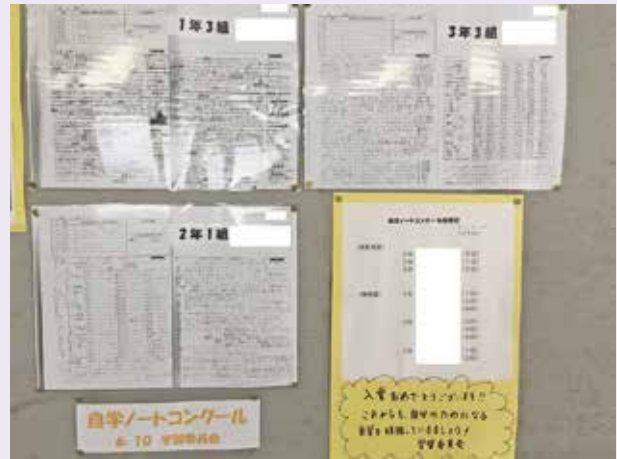
実施方法

- ・金・土・日の自主学習を対象に月曜日に実施。
- ・学習委員が各クラス1人を選出。
- ・学習委員長・副委員長・教師で最優秀賞を決定し、後日表彰を行う。

表彰の様子

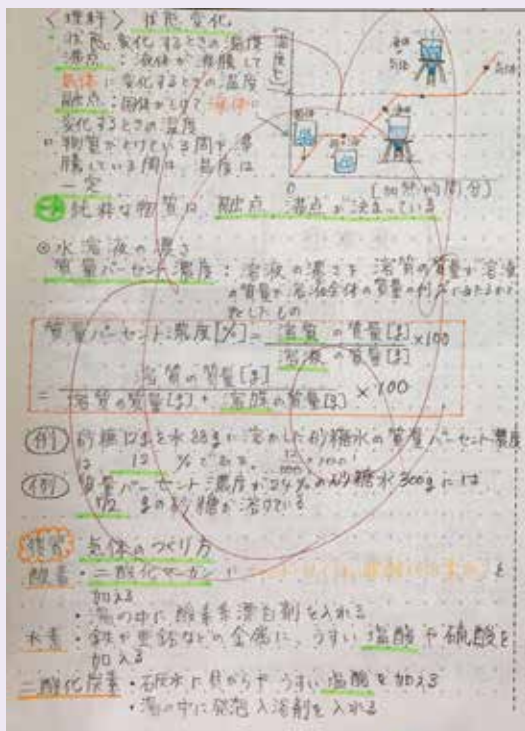


自学ノートコンクールの結果を掲示



審査基準

- 1 ぎっしり書いているか。(余白が少ない)
- 2 内容がしっかりしているか。
- 3 丁寧にまとめているか。(字が雑でないか、色なども使って工夫しているか等)



生徒のノート①



生徒のノート②

6

「熊本の学び推進プラン」の実施

推進プランの実施に当たっての留意点

- これまで第2章～第5章で述べた本推進プランを着実に実施するために、次の4点について留意します。

(1) 家庭、地域への啓発

- 学校が家庭や地域と目標やビジョンを共有していくことは、様々な教育課題に対して、学校教育だけでなく社会教育と連携・協働しながら地域ぐるみで対応していくことにつながっていきます。家庭や地域の理解と協力を得ることは、学校教育の質の向上のみならず、家庭や地域での教育を充実させていくためにも大きな効果があります。そこで、多くの家庭や地域に「熊本の学び」の目指すべきビジョン等が分かりやすく伝わるよう、各家庭に「熊本の学び」のポイントを分かりやすく解説した資料等を配付したり、県の広報誌等を活用して地域へ紹介したりするなど、あらゆる媒体を通じて周知広報活動を行っていきます。

(2) 市町村教育委員会との連携

- 今後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校・家庭・地域がより一層、連携・協働していくことが重要になります。本推進プランでは、この三者（学校・家庭・地域）に加え、子供、行政（市町村教育委員会）を含めた五者が一体となって連携を深め、地域の活性化に寄与する「学びの風土」を醸成することを推進していきます。そこで、今後は、市町村教育委員会に対して、「熊本の学び」の目指すべきビジョン等を説明するとともに、市町村教育委員会から寄せられた意見等を踏まえ、教育施策の推進に生かします。

(3) 研究機関等との連携

- 本県における教育の充実及び振興を図るために設置している県立教育センターと連携を図り、研修等の機会に活用していきます。また、研究指定校事業を展開し実践的な研究を行ったり、「熊本の学び」フォーラムを開催したりして好取組事例についての発信等を行い、各学校や教育委員会による主体的な取組を推進します。

(4) 新時代到来を見据えた定期的な方針の見直し等

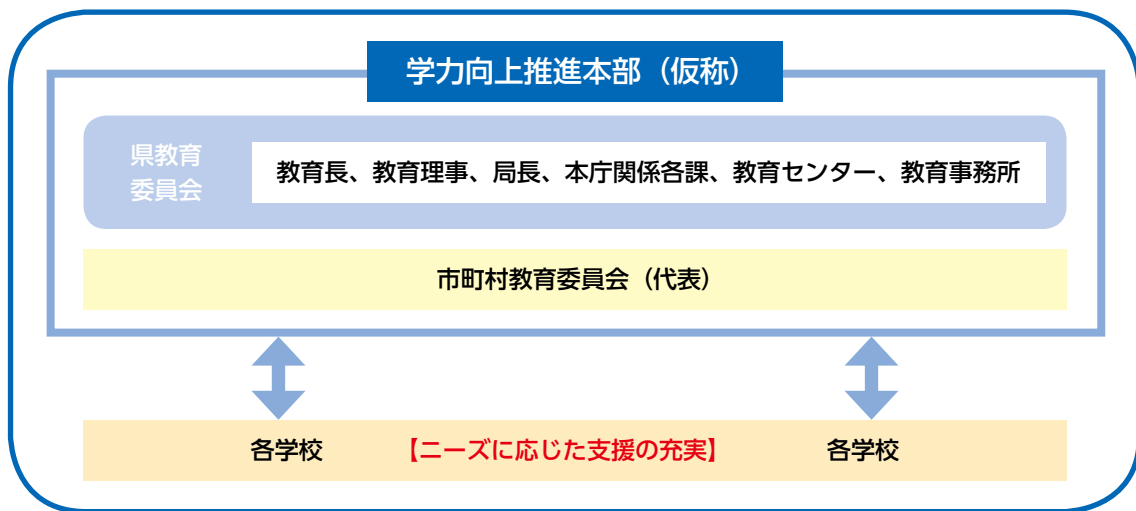
- 超スマート社会（Society5.0）の到来により、人工知能（AI）やビッグデータの活用などを通して、多様な学びが可能となり、それらが関連し合うことで教育や学びの在り方は大きく変化することが予測されます。そのような中、これまで第2章～第5章で述

べてきたことについては、着実に実施するとともに、県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の客観的な根拠に基づき成果を検証していきます。更には、今後、到来するであろう新たな時代の教育に対応できるよう、以下のようなスケジュールで定期的に見直し等を行うとともに、市町村教育委員会や学校現場の意見等を踏まえ、適宜、協議できるような体制を構築していきます。

・ 2020年4月	「熊本の学び」の実働
・ 2022年	検証委員会にて追記、部分修正等
・ 2024年	検証委員会にて追記、部分修正等
・ 2026年	検証委員会にて追記、部分修正等
・ 2028年	2030年の教育を踏まえ全面改訂準備

今後の方向性 ～学力向上の全県下的な取組の充実に向けて～

- 学力向上に向けた取組には、本推進プランで述べているように、五者の連携の強化がより一層、重要になります。そこで、今後、県教育委員会では、五者の中の行政（教育行政）の連携を確固たるものにするために、県教育委員会関係各課、教育センター、教育事務所はもちろんのこと、市町村教育委員会も含めた「学力向上推進本部（仮称）」を設置し、子供たちの学力向上に全県下で一体的に取り組んでいきます。



- その際、それぞれの役割を明確にするとともに、各学校や教職員のニーズに応じた支援やめりはりのある施策等の充実に努めるとともに、子供たちを「学びの主体」として育てるためのよりよい環境づくりを加速させていきます。
- 最後になりますが、市町村教育委員会や各学校においては、本推進プランを御活用いただき、それぞれの地域や学校の特色や実態に応じた「熊本の学び」に取り組んでいただくことを期待します。

「熊本の学び推進プラン」作成協力者

(職名は令和元年12月現在)

「熊本の学び」総合構想会議委員

児島 邦宏	東京学芸大学名誉教授	浦川 健一郎	熊本大学教育学部客員教授
田口 浩継	熊本大学大学院教育学研究科教授	浦田 安之	大津町立大津中学校長
松岡 義博	株式会社コココファーム会長	大園 恭幸	人吉市立人吉東小学校長
西山 忠彦	株式会社中九州クボタ社長	岩崎 良博	上天草市立大矢野中学校長
阿南 誠一郎	阿蘇市教育長	高山 裕子	玉名市立玉名町小学校スーパーティーチャー
田浦 かおり	熊本県PTA連合会副会長	志賀 文美	阿蘇市立波野中学校教諭
苫野 一徳	熊本大学大学院教育学研究科准教授	田中 香織	大津町立大津小学校教諭

「熊本の学び」ワーキンググループ委員

本村 由紀博	宇城市立豊野小中学校長	宮本 斉之	玉東町立玉東中学校教諭
本山 浩文	玉名市立横島小学校長	市原 靖隆	産山村立産山学園教諭
堤 浩利	菊池市立泗水中学校長	川崎 留美	高森町立高森中央小学校教諭
藤岡 寛成	高森町立高森中学校長	松山 淳一	御船町立御船中学校教諭
吉田 明博	益城町立益城中学校長	樋口 佳菜	八代市立植柳小学校教諭
永野 直文	八代市立第一中学校長	樋口 勇輝	八代市立八代小学校教諭
吉井 秀男	水俣市立水俣第一小学校長	内村 洋介	人吉市立人吉西小学校教諭
沼田 龍弥	天草市立亀川小学校長	吉海 雄平	湯前町立湯前小学校教諭
宮脇 真一	熊本大学大学院教育学研究科准教授	下中 一平	天草市立本渡南小学校教諭
尾崎 多佳子	宇城市立小野部田小学校教諭	松下 純也	天草市立本渡東小学校教諭
有働 ほずみ	産山村立産山学園教頭	田中 恵介	天草市立佐伊津小学校教諭
松永 尚子	山鹿市立米野岳中学校教頭	松村 吉教	山鹿市立山鹿中学校教諭
福田 恒臣	大津町教育委員会審議員	杉 聖也	教育政策課指導主事
浦上 友紀	宇城市立松橋中学校主幹教諭	中原田 聖子	芦北教育事務所指導主事
島 章人	荒尾市立荒尾第一小学校主幹教諭	那須 治美	球磨教育事務所指導主事
長尾 浩史	菊池市立菊池南中学校主幹教諭	西山 俊企	県立教育センター室長
古川 忠司	大津町立室小学校主幹教諭	櫻井 祐二	県立教育センター指導主事
浅野 順二	菊陽町立菊陽中部小学校主幹教諭	田上 貴昭	県立教育センター指導主事
柴田 征宣	宇城市立豊野中学校教諭	水上 洋平	県立教育センター指導主事



【問合せ先】

熊本県教育庁教育指導局義務教育課

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL 096-333-2688 FAX 096-385-6718

<http://kyouiku.higo.ed.jp>